

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目1～10)	仕事に携わる中で、問題点や気づき等を日頃から話せる事が、職員にとって「良い環境」である為、その環境の中で働いている事が「職員のやりがい」に結びつく事だと思う。	今後も職員が看護小規模多機能のサービスと在宅支援の在り方を理解するように努める。法人内外の研修に関しては、オンラインの研修が中心の為、職員が積極的に参加できる環境を作る。業務において自身のスキルアップを行う事で全体的な質の向上につなげる。情報共有においても、紙面・口頭からICTの活用を行い、移行途中である。情報を自ら取る風土に変革を行う。スタッフそれぞれが報連相を意識し、声掛けをしながら取り組む。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目11～27)	当事業所と他の施設を見たときに、施設によって取り組みが異なる為、「10の基本ケア」や現在の利用者への支援について、話をした時に「そんな事はできないでしょう。」と意見がある。	今後もスタッフ全員が利用者さん・家族のニーズを聞き取りアセスメントが行えるように、看護・介護のそれぞれの視点から日々の気づき(本人との会話や行動・表情などから思いを汲み取り)も共有し、統一したケアに取り組む。自立支援・法人としての10の基本ケアも併せ、必要なケアを計画書に組み込んでいく。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目28～31)	特に意見無し	入退院時の医療との担当者会議への積極的参加を継続し共有を図る。退院後、サービス開始からの関りは多いが、退院前からの関りは一部スタッフに限られている為、退院時の担当者会議や、本人・家族からの聞き取りなども全員が参加できる機会の提供と育成が必要。受診時や往診にて医師との共有は行えているが、介護側からも生活面での気づきなどがあれば報告し関わっていく。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目32～41)	運営推進会議に参加して話を聞いている上で、利用者さんへの支援が「施設では真摯にケアされている事」が伝わります。それを隣人や知人に話すようにしています。	この2年コロナ禍で、地域の活動は休止としているが、そのような状況の中でも地域との関りが何かしらの形で出来ないかを模索している。地域の方が元気な時から関り、介護が必要になった時にも安心して利用してもらえるよう、日々関り、地域の方が何を必要としているのか、地域の特性を知っていく。また医療ニーズの高い利用者さんにも対応していける体制も作っていく。
III. 結果評価 (評価項目42～44)	看取りについても、何度も確認をしてもらい、家族の思いを汲み取ってくれている。 出来れば、24時間の対応を常にお願ひしたい。	これまでも、看取りまで関り、経験したなかで振り返り課題もある。看多機として利用者さんの24時間の生活に着目し、本人・家族のニーズに寄り添ったケアを行っていきたい。、多様なニーズに対応できる看護・介護・ケアマネジメントの専門的な知識も含め積極的に取り組み地域包括ケアの拠点となれるよう努める。	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します